

【茨城町】 校務DX計画

【現状】

茨城町では、AIドリルを導入しドリル学習については、採点機能があるため画面上で学習履歴の確認ができていますが、紙教材については併用して活用している状況となっている。

また、保護者への連絡やアンケートにおいて、半数以上の学校についてはGoogleフォーム等のクラウドツールを利用しており、出欠確認等については、集計作業の省力化を図れている。

これらの取組で一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一扫が一部しか進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

また、校務支援システムの共同調達・共同利用に向けた検討を始めたところである。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

茨城町では、「Microsoft365」等のクラウドツールを活用した学習は進んでいるが、校務としては児童・生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が一部進んでおらず、電話対応や書類の印刷・配布など教職員の負担となっている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、例外的に必要と考えられる業務があるため、廃止が出来ない状況である。

押印については、口座振替申請等の例外的に押印を求めざるを得ないものがあるため完全な廃止が進んでいない状況である。

(3) 校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業

児童生徒情報における、保護者の職業や緊急連絡先の登録作業及び変更作業を手入力で行っている状況である。

【取組方針】

現状と課題から茨城町では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの活用

児童・生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとりについて、クラウドツールの活用を推進し集計作業の効率化を図る。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、例外的に必要とするもの以外はメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の見直しを図っていく。

(3) 校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業

クラウドツール上でのデータの受け渡しを行う方法を検討し、不必要な手入力作業の見直しを図る。